

# 波照間島の神行事について

～プーリン(豊年祭)を中心に～

仲 底 善 章

## 1 はじめに

今はサトウキビを中心とする畑作中心の農業の島である波照間島。このような農業の形態は1961年～1963年に架けて中型の製糖工場の立地により続けられた農業形態である。それ以前の波照間島では麦や粟・稲作を中心とする半農半魚の自給自足に近い農業形態であった。山の存在しないこの島において、水の確保は命賭けそのものであった。

かといって頼れる水は地下水のみで、それを農地に引き込むことはほとんど不可能なことである。後はひたすら雨が降ってくれることを祈るのみである。

このようなことで、島の神行事は、アミニゲー(雨ごい)を中心にして行われ、プーリン(豊年祭)をもって終了することになる。

この一連の行事は、島の神司(女性司祭者)たちにとっては大切な儀式であり、そのことは島の役員であるオーシャピトリ(公民館役員)にとっても大切な島(村落)行事である。

本稿では多い神行事の中から、プーリンを中心とした行事の内容を神司(カンツカサ)のパン(神歌)結びつけ、その様子や聞き取ったことを報告します。

## 2 主な島の神行事について

以下、波照間島における神行事の一覧を先に述べ、その後、テーマについて述べます。

### 波照間島の神行事(一覧表)

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 シンの入り         | 2 シンヌ舟漕ぎ         |
| 3 カンヌ ムヌ ソージ    | 4 トウシヌ パツメヌ ヌブリ  |
| 5 ジュンガツ ミョウクチー  | 6 ジュンガツ カンパナ     |
| 7 アラタビヌ ツクリニゲー  | 8 ジュンガツ シマフサラー   |
| 9 アミニゲーヌ アサニゲー  | 10 アミネゲーヌ スニゲー   |
| 11 ウシヌバンヌ バンユレー | 12 ナータビーヌ ツクリニゲー |
| 13 アミニゲーヌ アサニゲー | 14 アミネゲーヌ スニゲー   |
| 15 三日クムリ        | 16 ミニン バンユレー     |
| 17 プータビヌ ツクリニゲー | 18 トウシヌ ヌブリ      |
| 19 カンヌ ムヌソージ    | 20 ヌブリ           |

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 21 アラブリ      | 22 五日クムリ       |
| 23 二月ミョウクチエー | 24 2月 カンパナ     |
| 25 2月 シマフサラ  | 26 2月 トウマニゲー   |
| 27 ブサチマチー    | 28 アミネゲー アサニゲー |
| 29 トリヌ バンユレー | 30 トピムヌ ニゲー    |
| 31 ヌブリ       | 32 ナーブリー       |
| 33 カナムヌ ソージ  | 34 スクマン マッシ    |
| 35 7日 クムリ    | 36 シピランカン      |
| 37 ヌブリ       | 38 プリプチ        |
| 39 シマフサラ     | 40 5月 ミョウクチエー  |
| 41 5月 カンパナ   | 42 プーリン        |
| 43 アサヨイ      | 44 アミジュワー      |
| 45 ユーニゲー     | 46 5月 トマニゲー    |

(42) プーリン 庚寅 (かのえ とら) プーリンの3日目の当日

この行事は粟、稲の初穂で神餅を作り、神に豊作を感謝し、1年間の神行事の最後の行事で、島人たちは歌い踊ったりして、島最大の祝日としている。以前、この行事は旧7月15日のムシャーマの行事と併せて行われていたが、旗頭に起因する東西の対立があって、当時の役人により、プーリンに行われていたム棒踊り、太鼓、獅子舞、舞踊などは旧盆にユーニガイ＝世願いとして、ムシャーマの行事として改められ、頭、綱引きは廃止された。

それ以来、この行事は初めの4日間の（1日目のミョウクツエ、2日目のカンパナ、3日目のプーリン、4日目のプーリンヌアサヨイ・スーニゲ）と20日後のアミジュワーの2日間（1日目のアミジュワーと2日目のユーニゲー）として行われてきたが、その後の簡素化で両方の行事を連続6日間で行い、さらには4日間で行う現在の形になった。

第3日目はプーリンの当日である。午前十時頃、司とバナヌファたちがトニムトゥの神前で拝み祝った後、それぞれピイチヌワーへ神様をお迎えに行く。

プウリンのパン＝神歌（大石御嶽）

トウチイ トウチイ  
クツンヌ スクルブル イシキン ドンチンヌ アタリオルタラ  
スクルユウ ウチクルユウ ウゴンヌ アガリオリチ ブシパカ トウパカ  
パカカチ マシイカチ パカクチェーシヨオリ マシイクチェーシヨオリ  
イビグサ サチグサ シヨオータラ シル（白）ミジ 雨ミジヤ

五日マリ 10日マリ 夜ヤシネン ピイスヤシネン スイスイニ タボララオリ  
 シタニンウラオリ ケーニンウラオリ ムトズサン ニイズサン タボララオリ  
 ブウムトウヌナガガラ ナガムトヌナガガラ モトウヤン サカウヤン  
 タボララオリ ウリジン ユガフナリオルタラ イバヤダギ スシキヤダギ  
 アラシマタボリ  
 イルケシャーヤ パアケシャー フキケシャー アラシマタボリ  
 ノーリユウ メエリユウヤ 島メン フウヌメン タボララオリ  
 トリィウクリン シヨオリ  
 カリウクリン シヨオリ ブダシン マダシン タボララオリ  
 今日ヌ 神ピイル 上ピイルヌ アタリオルタラ ウバナヌ 神ヨオイ 上ヨオイ  
 ウパチヌ ウゴンアゴルタラ ムトヌファ パナヌファー ナリオルソウ 神ヌ所  
 ナミナミ オルウヤン カンシケン シヨオリ ウイシケン シヨオリ  
 ヤマニンジュー スウニンジュー ナリオルソウ ウシトウ ジュナリオルソ  
 カンヌブナ ウイヌブナ オリチ 神ヌコウムチ ウイヌコウムチ 神シナシン  
 シヨオリ ウイシナシン シヨオリチ 神ヌコウムチ ウイヌコウムチヤ  
 カングシン ウイグシン タチウセ 九合花ヌ 神バナ 上バナ 神ミシャグ  
 上ミシャグ 九ナムリヌ 神クパン 上クパン 神コウシ 上コウシ  
 九ナムリヌ スネブン 七ナムリヌ スネブン 五ムルヌ スネブン シミジラ  
 ウナマシ 1番 2番 3番ヌ カンシナムヌ ウイシナムヌ ニゲーヌウセ  
 トリィカワシノウセ コウービヌ 神ヌコウムチ 上ヌコウムチ 神シナシン  
 シヨオリチ 神ヨウイ ウイヨオイ ウパチヌ ウゴンアガオラバ イイウゴン  
 アギシマタボリ  
 トウチイ

線	九ナムリヌクパン	ニゲーウセ	トリカワセのウセ
	九ナムリヌクパン	ニゲーウセ	トリカワセのウセ
香	九ナムリヌクパン	ニゲーウセ	トリカワセのウセ
	ミキ (イチン=2つ)	1番 2番 3番	吸物
三	ミキ (イチン=2つ)	1番 2番 3番	吸物
ハ	ミキ (イチン=2つ)	1番 2番 3番	吸物
コ	九合花米	シイ ミザラ	ウ ナマシイ
ナ	九合花米	シイ ミザラ	ウ ナマシイ
モ	九合花米	シイ ミザラ	ウ ナマシイ

ト	立ちグシン 立ちウセ	五ムルヌ スネブン
	立ちグシン 立ちウセ	七ムルヌ スネブン
	立ちグシン 立ちウセ	九ムルヌ スネブン
九		カンコウシ (15)
十		カンコウシ (15)
九		カンコウシ (15)
ペ		
ア		

ペア（一度で33回と数える）とは両手を地面に着けたり、離したりする祈願の仕方。

富嘉ムラの阿底御嶽のパナヌファたちが、島  
のトニム トゥ（宗家）といわれている保田盛  
家に集まり、ピナカン（火の神）、ブザスケー  
（床の間）の順に祈願をした後、各自は手に神  
酒〈ミシ〉の入った大盃を持ち、シヌザラとナ  
ガザラの歌を奏でる。



保田盛家での祈願

次に泡盛の入った杯を取り上げて、ニガイヌ  
ウタを歌ってトニムトゥ（宗家）での儀式は終  
わる。このニガイヌウタは「御前風」と同じ歌を歌う。

保田盛家での儀式を終えると、カンシン（神女司の）一行は2手に分かれ、その一つは  
富嘉村のトニムトゥ（宗家）の家2軒（島本家→本比田家）を回り、同じように儀式を行  
い、その後、真徳利御嶽へ赴き、神様をお迎えして阿底御嶽へ戻る。もう一方はカンシン  
（神女司）は、トニムトゥ（宗家）の保田盛家を出ると直接ミシユクへ赴き、神様をお迎え  
して阿底御嶽へ戻る。一方、トニムトゥ（宗家）の保多盛家の主人は、米と粟でおにぎり  
を作り、塩と粟もそれぞれひとつまみづづ9個と3個、ピッル（ニンニク）3玉をピリカ  
ナパー（クワズイモ）の葉で包み、少々のミシ（神酒）とコー（線香）を持参し、潮が引  
けば徒歩で、潮が合わなければ船を浮かべてバシヌミゾリ＝バルシヌフツイ？（西の  
海への溝）に行き、祈願する。

その後この場所から網で魚を獲り、プーリンの供え物として捧げる。

ピィテヌワーやミシユクへ神様を迎えにいったパナヌファーたちが阿底御嶽へ戻ると、  
その中から選ばれたカンシン（神女司）9名が、クバの扇を片手に持ち、阿底御嶽を出  
て、島本家の脇をブニヤマを通り、バスケのケ（井戸）でパンを歌いながら9回まわる。

その後、大石御嶽、大底御嶽を回り、ケーシムリの脇を通り、勝連家と田福家の間を通り、ユネンケー（井戸）を9回まわり、田福本家の前を通り、阿利家を通り新本家の脇を抜けるようにして、新本御嶽に入る。その後、新本御嶽を出て、松本家の脇を通り、美底御嶽に入り、豊年を祝う。各御嶽では阿底御嶽のカンシン（神女司）9名が訪れると各御嶽の司とパナヌファが次のようなあいさつを行って迎える。



大石御嶽での祈願

※ 司とパナヌファのあいさつ（名石村の大石御嶽の場合）

シサレ

クツンヌ スクブル イシキン殿地ヌ アタリオルタラ  
 スクルユウ ウチクルユウ ウゴン アガオリチ  
 ブシパカ トウパカ パカヌカチ マシイヌカチ  
 パカクチェシン シヨオリ マシクチェシン シヨオリ  
 イビグサ サチグサ シヨオタラ シタ（下）ニンウラオリ ケーニンウラオリ  
 アミガフ ユガフヤ 五日マリ 10日マリ ユルヤシネン ピシュヤシネン  
 スイスイニタボララオリ ウリジン ユガフナリ オルタラ ブウムトヌ ナガガラ  
 ナガムトヌ ナガガラ イバヤダギ ユシキヤダギ モトウヤン  
 サカヤン タボララオリ  
 イルウケシャー パアケシャー フキケシヤンタボララ オリド ノーリユウン  
 メーリユン タボララオリ フダシン マダシン タボララオリ  
 シジヤ スクルユウヤ トリィウクリ カリーウクリン シヨオリ  
 今日ヌ 神ピイル 上ピイル 神ヨオイ 上イヨオイ ウバナヌ ウペチヌ  
 ウゴンヌ アタリオリド フカヌ モトガラ 九ナヌフナン セヌフナン  
 五シヌフナン トリオリ 神タチン、上タチン シヨオリ ブイシ ナイシ  
 パナスクバラ ムトゥヌザア ニヌザァ 神シケシン タボリ ウイシケシン  
 タボリチ ザア ユラヘンシイ タボリ ピサユラヘン シイタボリチ 神ヨイ  
 上ヨオイ ウバナヌ ウゴンヤ イイウゴン アガオリタボラロ  
 ナミナミ シサレー

平成9年度は阿底御嶽のパナヌファが4名しかおらず、9・7・5の奇数のカンシン（神女司）が揃わず、御嶽巡りの儀式は行うことが出来なくなった。このようなことは終戦直後にあって以来、2度目であるとのこと。

美底御嶽でのパン（阿底御嶽のパナヌファーによる）

イリミョウダキ オール ウヤンヤ ウトウヌス ヤリオール  
ナリミョウダギニ オール ウヤンヤ バガヌス ヤリオール  
クムヤパナ オール ウヤンヤ ミジヌスヌ ヤリオール  
ガリヤパナ オール ウヤンヤ アミヌヌス ヤリオール  
イエーンスユ ドウ クナッイヌ ススミジ アマミズヌ  
ウガンヌ アタリオータラ アラスク グカラ  
ハクナヌ クナ ナナヌ クナ イシヌ クナン トリオール  
カンドツィマ ウイタツィン ショーリ  
イシヤマ ニヤマ ススミジ アミミジ ウガン アガオリ  
ムトヌ ザーガ カンシケーシララ タボララオリチー  
イー ウゴン アギスマ タボララオリ

カンシンの歌

イリミョウダギ ウトヌス ヨ ナリミョウダギ バガヌス ヨ  
クムヤパナ アミヌス ヨ ガリヤパナ ミジヌス ヨ

美底御嶽までの祈願が終わると、クバの葉の扇を上下に動かしながら、下記の場所の親神様に感謝の神歌を捧げ、それぞれの神々を阿底御嶽に招きよせつつ阿底御嶽に戻る。

（図4. P254を参照）

- ① 美底御嶽を後にして「ヤーニレユードウ、ニガヨルヨ アマミジドウ ニガユルヨ」を歌いながカンシンの行列が動き出す。
- ② カンタバラ（ル？）ヤマの南西で「タバル ダン タナアジヌ ウヤダミヨ」と歌う。
- ③ カンタバラメーパナジの場所で、東に向かって「アリピンガシ オール ウヤンスマダミ スーダミ ショール ウヤン アミユ タボラシ、アリピンガシ ヌビギリマ ヨ、スマダミン ショールン ヨ、フンダミヌ タミ ショールン ヨ」を歌う。カンシンはサカンケのため、メーパナジで待つ。ミシクの神女とバスヌスカに向かって「シジルベ ヌ タミン ショールン ヨ、カザルベヌ タミ ショールン ヨ アミユ タボラシ」とあいさつを行う。

これに神女に対して、カンシンの頭が次のように答える。

「イツヤマ ミーヤマ ススミジ アマミジ ウゴン アガオリ、カン シケーシンムトヌザーガ カエリオール、サカンカエヌ サカスケー ター ムチオールグシンヤ カミン ユ スサーレ」

- ④ 南に向かって歩き。ブハッテ（東田）の後方の田に向かって、「ナーマ マス

- タミ ショールン ヨ、ナーマス マス クヤクルン ヨ アミユ タボラレ」  
と歌う。
- ⑤ 北の集落内をアラントウ御嶽に向かいつつ「ニヤントウ (ヤーニドウ) ヨ ニガ  
ユルン ヨ、シルミジドウ ニガヨルン ヨ、アマミジドウ ニガヨルン ヨ イ  
スカマーリ アミユ タボラリー」と歌う。
- ⑥ マスムティ (松本) の南の3角地点で東の高那ザシに向かって「アリピンガシ  
ビギリマーヨ、スマダミヌ タミ ショールン アミユ タボラレ」と歌う。
- ⑦ アラントウ御嶽の東の道で御嶽のマソミに向かって「アーラントウヌ ウヤダミ  
ヨ一、アミヨ タボラシ」と歌う。
- ⑧ メムゲー (前迎家) の後ろの交差点で東の高那崎に向かって「タカナザス オー  
ル ウヤン、スマダミ スーダミ ショール ウヤーン イユーンヌス タカナザ  
ス ウヤダミヨ スマダミヌ タミ ショールン ヨ、フンダミヌ タミン ショ  
ールン ヨ、アミユ タボラシ」と歌う。
- ⑨ タカタミチ向けて大底御嶽へと進行中、新本御嶽の神女に近づきながら「シシル  
ベーヌ タミ ショールン ウヤダミヨ アミユ タボラシ、カザルベーヌ タミ  
ショールン ウヤダミヨ アミユ タボラシ」と語りかけながら歌う。
- ⑩ 「オヤケアカハチの生誕地近くの場所で「？」を歌う。
- ⑪ 大底御嶽の手前の道で「クナリユー ドウ ニガヨルンヨ、シルミジン ドウ  
ニガヨルンヨ一、アミユ タボラシ」と歌う。
- ⑫ 大底御嶽を見ながら「ナガ ブシクヌ ウヤダミヤヨ アミユ タボラシ」と歌  
う。
- ⑬ ケーシムリ御嶽に向かって「マイバルジヌ ウヤダミヨ アミユ タボラレ」と  
歌う。
- ⑭ 更に西進し、ペナーバリの方面に向かって「ペナーバリヌ ウヤダミヨ、フン  
ダミヌ タミン ショールン ヨ アミユ タボラレ」と歌う。
- ⑮ 一行は2手に分かれる。ケーシムリのカンシンは先周りをして、山田家の東を待  
つ。その間、他の一行は「シジルベーヌ タミ ショールン ヨ、カザルベーヌ  
タミ ショールン ウヤガミヨ アミヨ タボラレ」と歌いながら進む。
- ⑯ 山田家の前を進み、昔、役人が住んでいたという場所で西に向かって「ミザシュ  
ーヌ タミ ショールン、シナバグヌシューヌ タミ ショールン ヨ、アミユ  
タボラレ」と歌いながら進む。
- ⑰ メナマ家に向かって「サクアタル タメン ショールン、アミユ タボラレ」と  
歌う。

- ⑱ ナータヤマに向かって「ナータヤマヌ ウヤダミヨ、アミユ タボラレ」と歌う。
- ⑲ オーシャーに向かう場所でシムヤーマ（石垣島）に向かって「シム ヤーマーヌ タミ ショールン ウヤガミ ヨ、アミユ タボラレ」を歌う。
- ⑳ 場所でソコアタリに向かって「？」を歌う。
- ㉑ タカタミチィを「タカタミツィ クヤオリヨ ヤーニンユドウ ニガユルン ヨ アミユ タボラレ」と歌いながら進む。
- ㉒ ピサタヌウヤガナシに向かって「ピサタヌ ウヤガナシ アミユ タボラリ」と歌う。
- ㉓ クバスタゲーに近づきながら「クバスタゲーヌ ウヤガナシ アミユ タボラレ」と歌う
- ㉔ ゆっくりと歩き、扇を仰ぎながらマネヤマに向かって「プサタバラ タミ ショールン、マニヤマヌ ウヤガミ ヨ アミユ タボラレ」と歌う。
- ※ マネ(二) ヤマ=イッシ（石野）本家の南にある拝所（石野家は神行事の際には湯茶の接待を行っている）。
- ㉕ 大石御嶽に向って進みながら、ブナバリ方面に向かって「ブナバリヌ ウヤダミヨ、スマダミヌ タミ ショールン、フンダミヌ タミ ショールン、アミユタボラレ」と歌う。
- ㉖ 大石御嶽の神女に語りかけるようにして「シジルベーヌ タミ ショールン ウヤガミヨ、アミヨ タボラレ、カザルベーヌ タミ ショールン ウヤダミヨ アミヨ タボラレ」と歌う。
- ㉗ 大石御嶽のパナスクヌウヤガミ向かって「パナスクヌ ウヤガミヨ アミヨタボラレ」と、南のパナスクマシに向かって「パナスクバル ウヤガミヨ ヨ、アミヨタボラレ」と歌う。
- ㉘ テーレ（波照間家）とパナスクゲーの前を通り抜けながら「パナスクマス タミ ショールン ウヤガミヨ、シリミジ バ ニガヨルン ヨ アミヨ タボラレ」と歌う。
- ㉙ カンチャヤマの前を通り抜けながら「カンチ アザマナグ ウヤダミ ヨ、イスカマーリヌ アミヨ タボラレリ」と歌う。
- ㉚ 富嘉村への分岐点のヤフクマシで「ヤフクマシ クヤ オルンヨ ウヤガミヨ、ヤーニンドウ ニガユルン アミヨ タボラレ」と歌う。
- ㉛ ネーマヌコッチで「ネーマヌ コッチ タミ ショールン ウヤガミヨ、アミヨ タボラレ」を歌う。
- ㉜ サバナコッチに向かって「サバナコッチ クヤウル ウヤダミヨ アミヨ タボ

ラレ」と歌う。

- ③③ ビラツィの坂道の手前で「タカナザスヌ ウヤダミ ヨ、タカナバリ クヤオル  
ン ウヤガミヨ アミヨ タボラレ」と歌う
- ③④ 高那バリでは「三步のジャンプ」で飛び越すようにして渡り、一時休憩を取る。
- ③⑤ バシキゲーに近い低地のユナバリドに向かって「ユナバリ トウヌ タメン シ  
ヤオリ アミユ タボラレ」と歌う。
- ③⑥ ピタ村の南にある低地のタバリドウに向かって「タバリドウヌ タメン シヤオ  
リ アミユ タボラレ」と歌う。
- ③⑦ タバリドウの東の高くなったスサンコッチに向かって「スサンコッチヌ タメン  
シヤオリ アミユ タボラレ」と歌う。
- ③⑧ ナイシャ マシに向かって「ナイシャ マシ タメン シヤオリ アミユタボラ  
レ」と歌う。
- ③⑨ フネマスに向かって「フネマシ タメン シヤオリ アミユ タボラレ」と歌う。
- ④① イシュマスに向かって「イシュマス タメン シヤオリ アミユ タボラレ」と  
歌う。 ※ イシュマス=バシキヌケーの西にあるピラツィ（前加良）家の田
- ④② サクラマスに向かって「サクラマスヌ タメン シヤオリ アミユ タボラレ」と  
歌う。
- ④③ ブニヤマに向かって「ブニヤマヌ ウヤガミヌ タメン シオリチ アミユ タ  
ボラレ」と歌う。
- ④④ ブニヤマで北のフンダマスに向かって「フンダマスヌ タメン シヤオリ アミ  
ユ タボラレ」と歌う。その後、南のブニマスに向かって「ブニマスヌ タメンシ  
ヤオリ アミユ タボラレ」と歌う。

※ フンダマス=カチガレー（保田盛）家の南にあるブニ（大嶺）本家の田。この  
田からブニ家はヌブリのケーを作る。

※ ブニマス=カチガレー家の西のブニ家の2番目の田

- ④④ その後、ナンチ（島本）家の脇を通過してフタモリ井戸近くのケーマスで西の空に  
向かって

「ケーマスヌ ウヤガミヨ アミユ タボラシ、イリミョウダギヌ ウドヌシ  
アミユ タボラシ ナリミョウダギ パカヌシ アミユ タボラシ クムヤバナ  
アミヌシイ アミユ タボラシ カリヤバナ ミジヌシイ アミユ タボラシ  
シマダミン シオリ フンダミン シオリ アミユ タボラシ シーサリバーヌ  
タメン シヨオリ カザリバーヌ タメン シヨオリ」

と歌って、出発地である阿底御嶽に戻る。

その間、各御嶽では司とパナヌファーがクバの葉の扇を上下に動かしながらカンシンを迎える。

カンシンは御嶽のマソーミ（イビのある小屋）で祈願をし、それが終わると、シンブリヤ（男のカンシンの接待をする人）2人とカンシンとの掛け合いで、シヌザラ、ナカザラ、ニガイヌウタが歌われる。

プーリンヌシヌザラぬアヨー（大石御嶽の場合）

- 1 キューガペエヌ クガーニペート ニガヨル  
（今日の日の 黄金の日を 願う）
- 2 カンクパナ ウイクパナ ニガヨル  
（神 米 上御米を 願う）
- 3 ナウリユヌ ミギリユパー タボラリ  
（稔る世の 実入る世を 賜り）
- 4 ナウリユヌ ミギリユヌ メボゲニー  
（稔る世の 実入る世の お陰で）
- 5 シノザラシユーヌ シイザラ メヨウヤ ウイス  
（角皿の ? ? ? 拝す）
- 6 ナガムラシ パタユラシ タボラリ  
（中盛らし 端漏らし 賜り）
- 7 ニゲータムチ シジタムチ タボラリ  
（願ったように 祈ったように 賜り）
- 8 ウヌニガイヨヌ カフド ニガヨル  
（その願い 果報 願う）
- 9 ピヤーシヨー ピヤーシヨー ユウワナウル ユウワナウル



シヌザラの器

↓  
神司の言葉

↓  
シンブリヤ（男の接待役） マーヌ カァージュ

↓  
プウリンヌナカザラぬアヨー

- 1 ニイウスウーヌ ウミシャグヨオー ムトシイーバアドウ ユウフ ナウル  
（ 粟の 御神酒 元にしてこそ 世は稔る ）
- 2 エー ナカザラヌ ウミシャグヨー ンチリバアード ユウフ ナウル  
（エー 中皿の 御神酒 満たせばこそ 世は稔る ）

- 3 エー ウヤーギーヨウーナオ ピャンガヨウー ナウル  
 (エー 富る世こそ 我らが世が 稔る )

カンシンの歌

- 4 エー ナガザーラヌ ウミシャグ ヨーンチリバアード ユウワナウル  
 (エー 中皿の 御神酒が 盈ち溢れたら 世は稔る )

- 5 エー ウヤーギーヨウー ナオー ピャンガヨウー ナウル  
 (エー 富る世こそ 我らが世が 稔る )

返しの歌 シィシィブラー (接待役)

イラーヨウーオー ウマサー カバサー  
 ( そうだよ おいしく においも )

ミョウヌワイス ファイスーヨンナー  
 ( 香しく 頂きますよ )

御 前 風

キューヌ フクラシャー ナヨン ニジャーナータ テイル

..... 以下省略

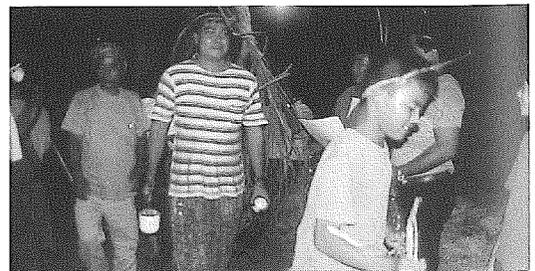
阿底御嶽に戻ると、一行九名のカンシンと司やパナヌファーたちは列座し、祝い稔りの感謝を行う。この時、神踊り(巻踊り)が行われる。この踊りを男性がみることは禁じられている。

一方、先に出たカンシン一行に少し遅れて、ウヤンシンと称する部落会長、総務、幹事などのオーシャピトゥー一行も、カンシンと同じ行程で各御嶽を回る。これらの祈願が一通り終わるころには、すっかり日も暮れ、各御嶽では盛大な巻踊りが行われる。

プリンノ期間中各ムラのトニムトウ(ナイシムラではトーニ=桃盛、イシナー=石中、ブスコイ=西波照間、フスコイ=富底?、イッシ=石野?では)「クパナ」といって今年の豊作の感謝の意を家のピナカン、ブザスケー、トウチイメー(拝所)にマンジュ(長命草、もやし、野ビル、アダンの実等で作った供え物)を九皿、七皿、五皿のセットで供えて行う。



公民館主催の巻き踊り

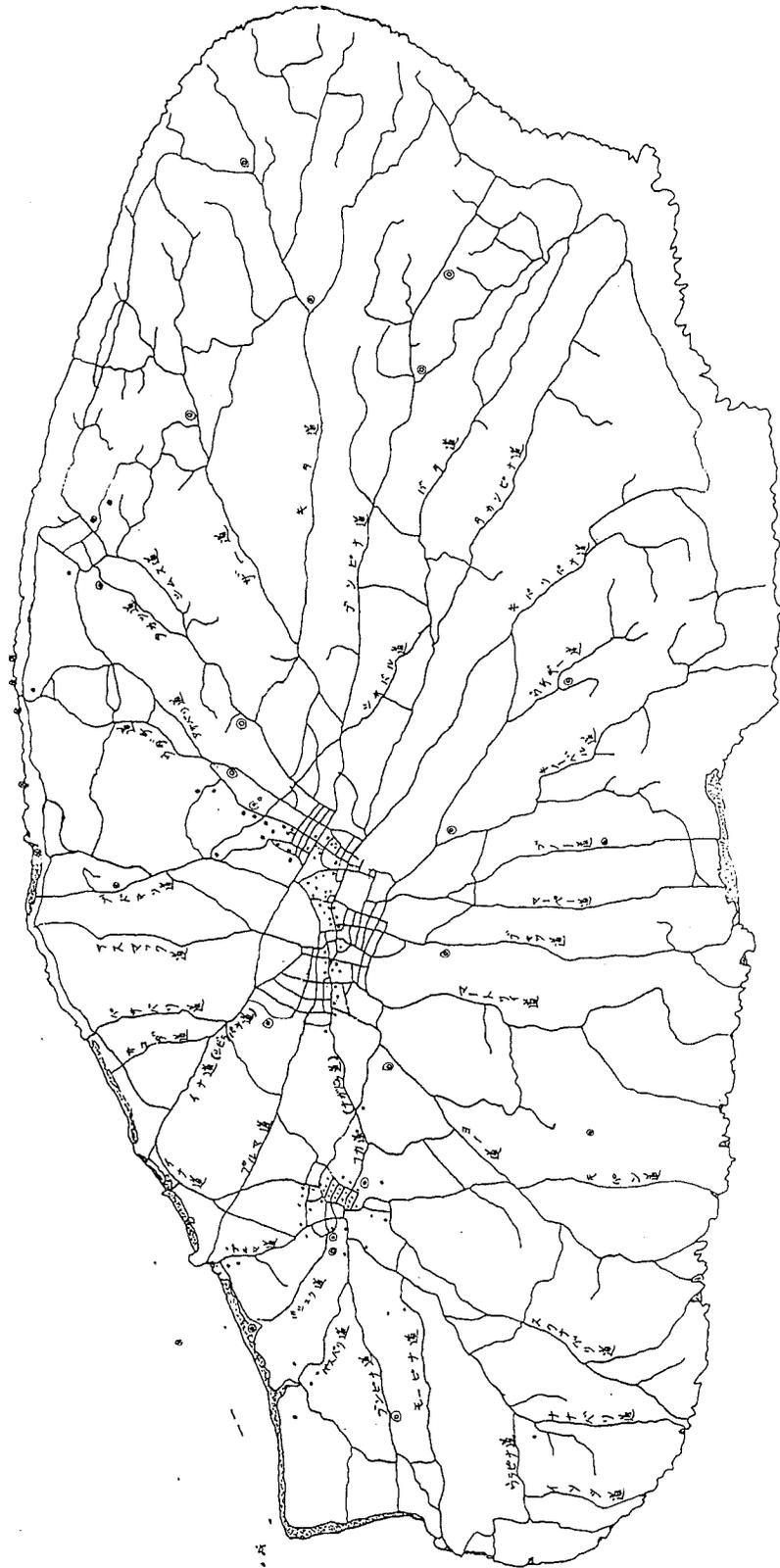


阿底御嶽での巻き踊り

図1 竹富町

波照間島  
(井戸・ため池)

神野の  
井戸・  
民田池  
盛水



4

図2 竹富町  
波照間島  
(併 所)

- 七字マワ
- 三ツマワ
- 水田、畑

↑

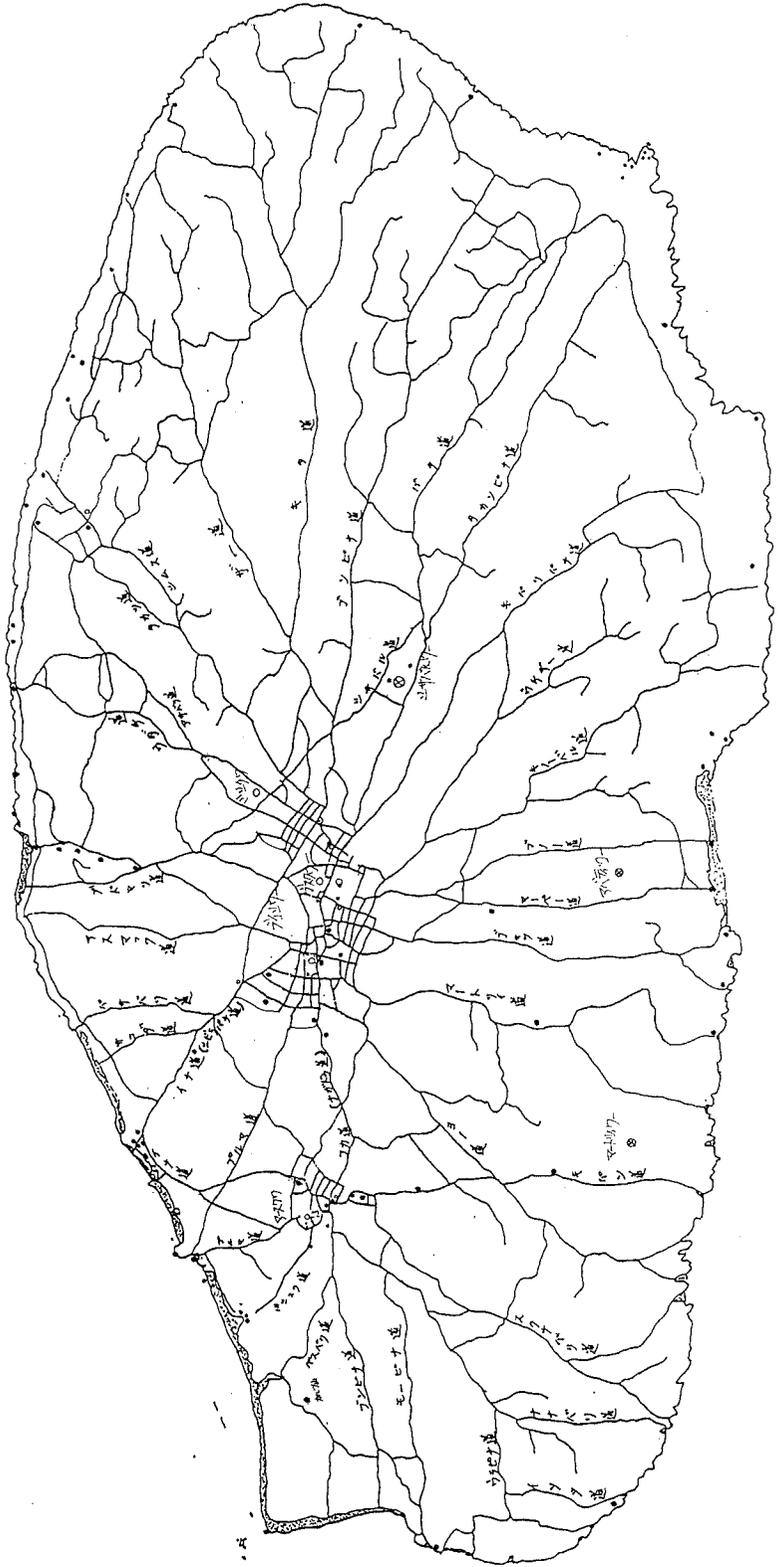
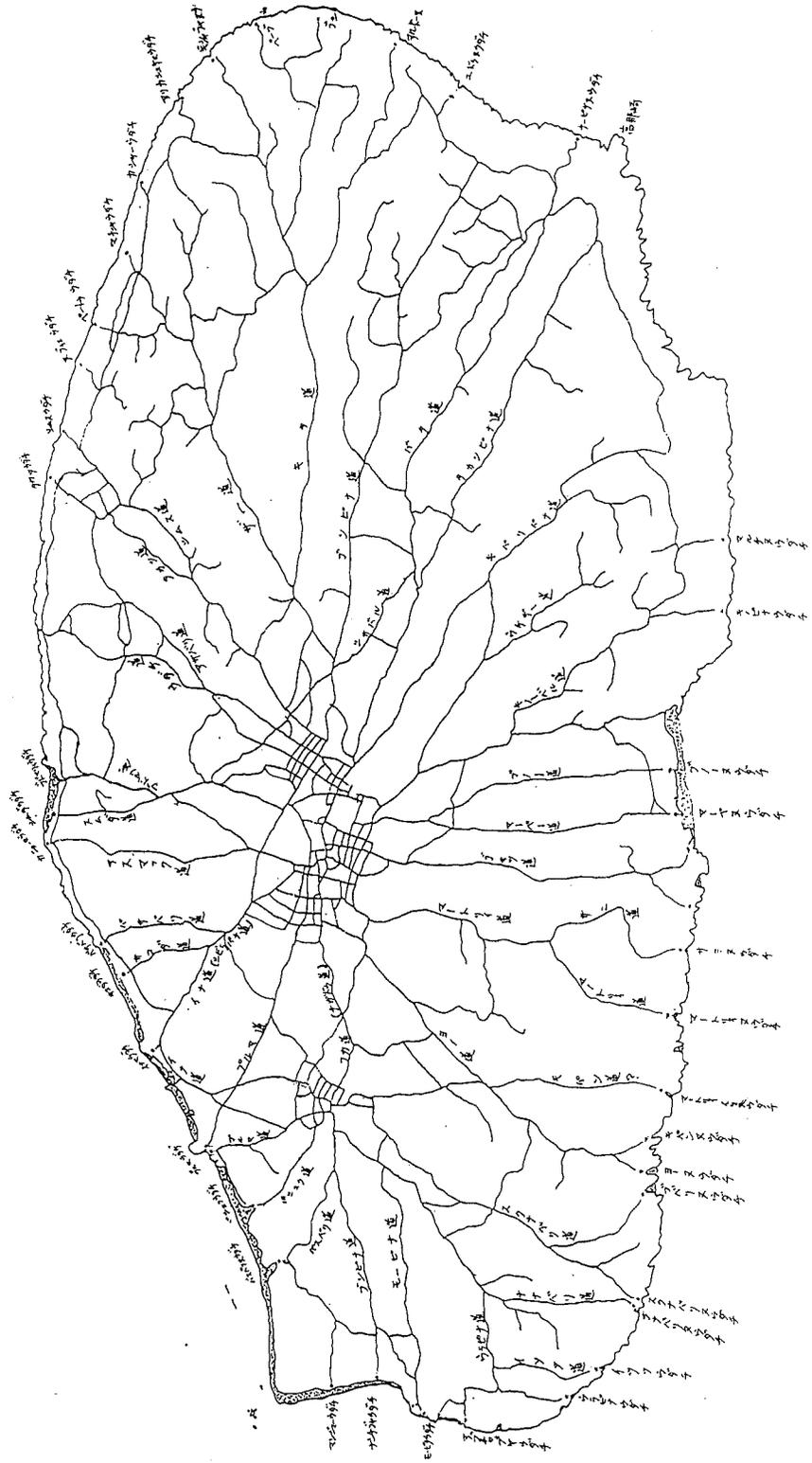


図3 竹富町

波照間島  
(道・ウダチ)

4



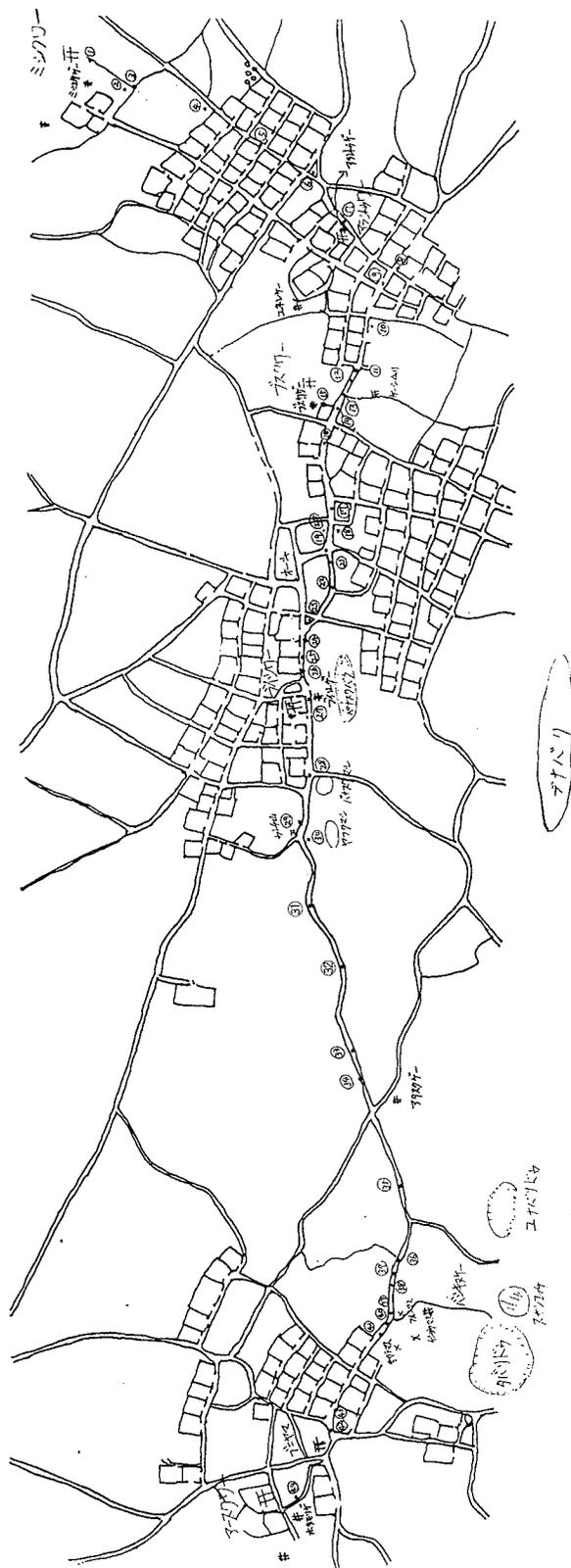


図4 アースクのカンシンの礼拝の場所